



明治三十二年度豫美に於ける財政經濟方針

訂正

秘





財政經濟方針

本邦ノ財政ハ近時非常ノ膨張ヲ爲シ財政
 ノ者ニ於テ一般經濟如何ヲ顧ルノ邊ナキ状
 態ヲ以テ暴進シ以テ二十年年度以前ノ戸
 ヲテハ八九千万圓ノ間ヲ昇降シテリ之種費
 モ二十九年年度ニ於テハ俄ニ増加シテ五億六
 千餘萬圓トナリ三十年年度ニ至リテ或億五千
 餘萬圓ニ増加シ三十二年年度ニ及ビ其モ減不
 凡所ナキノミナラス即チ或億三千餘萬圓ノ巨
 額ニ達シタリ
 憲政黨内閣ノ手ニ爲レハ以テ三十二年年度豫
 算ニ於テモ非常ノ節約ヲ勉メラレニ関ラズ經
 費ノ上ニ巨額ノ削減ヲ見ルニ至ラサレテ遺憾

トス而シテ其金額ハ或係三千億ト上ラントス如
ノ如ク經費ノ増加ヲ来シタリ可シラ案名ハ一
二七〇年ノ事件以後非常ノ速力ヲ以テ進
ミタリ物價騰貴ノ騰貴ニ歸スルハ一ハ戰勝ノ結
果及ニ改正條約實施ノ為メ 概邦ノ地位ハ一
大變化ヲ生シ 諸般ノ經營ヲ為スノ必要アリ
ニ由ル換言スレハ財政騰貴ノ主因ハ所謂戰後
ノ經營ニ外ナラス 就中特ニ巨額ノ増費ヲ為シ
タリハ陸海軍ニ關スル經費ナラズ以テ二一八
年ノ夜以前ニアリテハ常ニ二三千億ノ間ニ
アリシ軍事費モ二十九年夜ニ於テハ七千億
萬餘億トナリ三十二年夜ハ一億九千餘萬
億トナリ三十一年度ニ終ルニ至リ億五千餘萬

圓ニ達シタリ 明治三十二年夜豫算ニ於テモ亦七
億萬圓ヲ下ルコト能ハス 蓋シ國防ノ事タレバ
國家ノ生存ニ關シ其苟且ニ付スヘカラスヤ 論
ヲ待ス又此ノ如ク一財軍事費ノ巨額ニ上リタ
ルノモ 其過半ハ陸海軍ノ經費ニ屬スルヲ以テ
他ノ既定經費ヲ完了ヲ告クルト若シ自ラ減少
スレト雖モ一般經濟上ヲ見ルトキハ軍事費
ナレモハ其本質ニ於テ殖産ト相容レサルヲ以テ
濫ニ之ヲ増加スルトキハ其モノ自ラ生産ニ益ナ
キノミナラス生産的ニ使用ヤルニ他ノ經費ノ範
圍ヲ蚕食シ一般經濟上換害アルラ免レヌ故ニ
三十二年度ノ豫算編成ニ際シテハ成ルヘク不
生産的經費ヲ減少シ餘裕アレハ以テ生産的

經費に充ツルノ方針ヲ執リ殖産運輸交通教育ノ如キ直接ニ接シ生産に有益ナル經費に重キヲ置キ尤モ之ヲ軍事費ニ對シテ其増増ヲ防遏スルニ力メテ蓋シ財政ト經濟ト相伴ハスシテ財政ノ為メ經濟ヲ破壊スルカ如キコトアラハ遂ニ財政自ラモ失敗ニ終ルハ就中際限モテノ不生産的經費ヲ増加セハ早ニ財政整理ノ望ミ難キノミナラス早晚之カ紊亂ヲ来スコトヲ深ク憂ヒタルニ由ル

斯ノ如ク一定ノ方針ヲ以テ經費ノ性質ヲ察シ之カ節約ヲ試ミタルニモ關ラズ國家カ當ニ經營スニ急須ノ事業少ナカラザルカ為メ三十二年度總豫算ニ於ケル歳出貳億千八百餘万円ニ加フ

ルニ追加豫算ニ於ケル歳出千餘万円ヲ以テスルトキハ其金額ハ貳億三千万円ニ近ク既定ノ歳入ハ壹億八千八百万円ニ過キサレテ以テ差引四千五百餘万円ノ不足トナル此金額ハ何レカノ途ニヨリテ之ヲ補填セザレハカラス

今若シ此ノ不足ヲ國債ニ依頼スルトセシカ是レ尙ニ財政經費上其當ヲ失スルノミナラス經費増増ノ端緒ヲ開キ財政ノ基礎ヲ薄弱ナラシムルニ極ニ此ノ不足額ノ補填ハ決シテ之ヲ負債ニ求ムルカラス然ラハ清國ヨリ領收スル所ノ償金ヲ以テセシカ是レ亦國債ヲ以テスルト雖ト同一ノ非難ヲ免レ難キノミナラス領收償金總額三億六千二百餘万円ヲ既定ノ經費ニヨリテ議會ノ

控越リ徑テ既ニ使用シ又ニ使用セントスル金額
貳億ハ千九百餘萬圓ヲ扣除スルトキ、結局に至リ
七千餘萬圓ヲ餘スノ計矣ナリト雖モ三十二年及
ニハ現金ノ巨額ノ存積ナリ且ツ此内五千萬圓ハ非
常ニ準備基金ニ供シ貳千萬圓モ亦其用途大
凡ク定マレルカ極ニ償金ヲ以テ經費ノ不足全部
ヲ補充スルコトハ事實ノ許サレ所ナリ果シテ
然ラハ不足額ノ補填ハ國債ハ勿論償金ニモ
求ムヘカラス即チ經常ノ筆入ヲ以テ支辨スル
ノ外ナキナリ換言スレハ國家ノ財政ヲシテ鞏
固ナル基礎ノ上ニ立タシメント欲セハ増稅ノ手段
ニヨリテ確定永久ノ筆入ヲ得ルノ途ヲ講セザ
ルヘカラス

然レトモ租稅ノモノタルヤ一般經濟ト密接トシ關
係ヲ有ス故ニ若シ其方法ヲ撰ハス徴收ノ便ノミ
ヲ圖リテ漫リニ増稅ヲ行ハ膏ニ人民ニ過重ノ負
擔ヲ爲サシムルニ止マラス國家ノ生産力ヲ妨害シ
財政ノ爲メ一般經濟ニ損害ヲ与フルノ虞アリ
故ニ今日止ムコトヲ得スレテ増稅ヲ爲スニ方リテ
モ勉メテ生産者ノ負擔ノ増加ヲ避クヘキ方針
ヲ樹立スルヲ隨テハ生産的消費ニ課稅スルコト
トシ酒稅ヲ増課シ葉烟草ノ賣下價格ヲ引
上ケ新ニ砂糖稅ヲ起スト同時ニ此等消費
品其他之ニ障害ヲ与フヘキ輸入品ニ對シテハ
均衡的課稅ヲ爲サント欲ス而シテ右酒稅ノ
增加葉烟草ノ賣下價格ノ引上及ニ砂糖ノ課

税にヨリテ三十二年度は二千六百万円得らざり
見込ナリト雖モ尚ホ多少ノ不足ナキコトヲ得ス仍
テ所得税及ビ登録税法ニ改正ヲ加フルト同
時ニ多少ノ増率ヲ施シ更ニ日本銀行ノ對シ
課税ヲ行フ等ノ方法ニヨリ四五百万圓ノ收入
ヲ得テ之ヲ充テシテ國家ノ支出入ラシテ其ノ
平衡ヲ得セシムルコトヲ期ス

然レハ或ハ此ノ増税方針ヲ非難シテ曰ク斯ノ
如ク數多クノ税種ニ依テ零碎ノ累入ヲ
掃キ集メシトスルカ如キハ財政經書ノ最モ拙
劣ナルモノニシテ且ツ其安固ヲ缺クモノナリ今
ヤ米價大ニ騰貴シテ地租ノ負担ハ前日ノ半
ニ直ラス何ノ斷シテ地租ノ増加ヲ行ハサル其

之ヲ爲サレモハ區々ニ行懸ニ過キヤレトシ
ト經書ノ巧ト拙トハ敢テ問ハス地租ノ増加果
シテ必要ナリトセハ區々ニ行懸ノ如キハ細事
ノミ堂之カ爲メニ躊躇スヘケニヤ然レハ地
租ノ増加ニハ地價修正ナル難問題ノ固著セ
ルノミナラス地租ヲ増加セハ直接ニ生産者
ニ向ヒテ課税スルコトナルハ此ノ如キハ既ニ
陳述セシ殖産ニ課税セスト云フ財政上ノ
方針ニ及スレラ奈何セシ且ツ平常ノ事
ナキノ日ニ財源ニ於テ多少ノ餘裕ヲ存
スルコトヲ要ス多少ノ餘裕ヲ存セザレトキ
ハ國家財政上ノ信用ヲ薄弱ナラシムルニ
止マラス一旦事アルノ日ニ際シテハ必ス差支

ラ生スヘケレハナリ不シテ各種ノ消費税ナレモノ
ハ一國經濟上ノ進歩ト共ニ増加シ頗ル伸張力
ニ富ムヲ以テ平常之ニ依ルハ敢テ失當ナラズ
ト雖モ事アルノ日ニ於テハ多少減少スルヲ
免レス之ニ及ミテ地租ハ一定ノ地價ニ從ヒテ賦課
スルモノナルヲ以テ國家緊急ノ必要アルトキハ一令ヲ費
シ之カ増率ヲ為ストキハ忽ケ巨額ノ收入ヲ得ヘク
其收入タルヤ事ニ信ミテ還ニ收縮スルノ患ナキモノ
ナリ此ノ如キモノハ國家緩急ノ用ニ供スル為メ平常
事トキノ際ニ於テ保存スル好財源ナリ況ヤ地租ニ依
賴セサルモ尚ホ軍出入ノ權衡ヲ保テ得ラレ、以上ハ必
要ヲ生セハ率ヲ知ラス此際地租ヲ徴收セサレハ財政ノ
基礎安固ヲ缺クトハ謂フヘカラス

以上ノ方針ニヨリテ増税ノ經畫ヲ為シタリ
ト虽モ酒税ニ於テハ納期ノ關係上今年分ノ
増加收入ヲ得ルコト能ハス又砂糖税ニ在テ
モ其實施ハ改正条約ノ實施ニ伴ハサルヘカ
ラサルヲ以テ明治三十二年七月以後ニアラサレ
ハ効力ヲ生マシムルコトヲ得ス為メニ之亦全
年分ノ收入ヲ得ルコト能ハサルノ事情アルニ
ヨリ止ムコトヲ得ス三十二年度ニ限り新ニ増
加スル軍事費中砲台建築費初度調辦
費等ノ六万四千餘ノ金額ハ一時債金ノ内ヲ
派用支辨シ其他四万四千餘ノ電信製鉄所
ノ擴張改良費、如キ生産的ノモノハ公債支辨
ト為スノ經畫ヲ立テタリ然レトモ債金ヲ以

テスヘキ金額ノ如キハ明治三十三年度ニ於テ
増税ノ全年分収入即チ四千六百餘万円ヲ
得ルニ至レハ經常歳入ヲ以テ支辨シ得ルノ
ミナラス今後更ニ経費ノ増増スルコトナキヲ
得ハ該年度ニ於テハ尙ホ敷る万圓餘ノ剩
餘アル見込ナリ果シテ然ラハ此ノ財政経畫
ハ不確實ナリト評シ難キノミナラス事ノ茲ニ
至レルハ亦十二回議會ニ於テ増税法案成立
セサリシ自然ノ結果ニレテ抑モ亦止ムヲ得サ
ルニ出ツ

加フルニ必要ノ経費支辨ノ為メ増税ヲ行フト
共ニ国家生産力ノ發達増殖ヲ図ル為メ輸
出税ノ如キハ断然速ニ之ヲ全廢シ外國貨

易ニ對スル障害ヲ除キ即紙税法ヲ改良シテ
日常ノ取引就中商業手形使用上ノ便宜
ヲ圖リ又北海道水産税及ヒ北海道地方税
ノ如キ仲繩船税ノ如キ煩雜ニシテ帶費
多キニ比シテ其ノ收入ノ少キノミナラス多少
産業ニ関シ若クハ一地方一部ニ偏スル租
税ハ之ヲ廢止シ尙ホ旧法ニ屬シ不備ノ点
多キ營業税法ニ改正ヲ加ヘ以テ一般租税
ノ整理ヲ為サント欲ス主眼トスル所ハ一定
ノ方針ヲ以テ増税ニ内スト同時ニ租税制
度ノ整理ヲ圖ルニアリ
其他行政組織ニ改良ヲ加ヘ其整理ヲ圖リ
俸給金額ニ削減ヲ施スト共ニ下級官吏ノ

俸給ヲ控ニシ官吏其人ヲ得ルコトヲ力メ
成ルヘク少数ノ人負テ以テ敏活ニ行政ヲ
行フヲ奉行スルコトヲ期シタリ然レトモ主眼
ハ俸給廳費ノ如キ人負ニ屬スル經費ヲ減
少シテ經費ノ増加ヲ避クルト同時ニ成ルヘ
ク之ヲ一層緊要ナル費途ノ用ニ供スルニシ
公債ノ事ニ至リテハ既定ノ經畫ニ屬スルモノハ
外成ルヘク新ニ起債スルコトヲ避ケント欲ス
蓋シ經濟上ノ現状ニ徴スレバ内地ニ於テ公債
ヲ募集センコトハ全暫ク望ミ難キヲ以テ勢
ト外國市場ニ訴ヘサルヘカラス而レテ既定ノ
經畫ニ屬スル公債ニシテ必要増加スヘキモ
ノヲ加美セサルモ其募集未済ノモノ現ニ毫

億七千餘万円アリ増加額ヲ加美セハ其額高
ホ昂騰センモ知ルヘカラス此ノ以外ニ債金ヲ以
テ一時募集ニ應ジタル公債及ヒ金融ヲ緩和
スルノ目的ヲ以テ市場ヨリ買入レタルモノニシテ
政府ノ所有ニ屬スル公債五千六百萬餘万円アリ
之ニ加フルニ昨年倫敦ニ賣却セシ四千三百万
ヲ以テスルトキハ合計公債六千九百萬餘万円ハ外國ニ
關係ヲ有スル負債トナル若シ此ノ利子ヲ巻箇年
五分ナリトセハ千三百餘万円トナリ元金ヲ三十箇年
以内ニ償還スルモノト假定セハ毎年殆ト九百萬
ヲ償却スルヲ要シ少ナクモ此ノ數年間ハ年々
或千貳百万圓餘ヲ外國ニ支払ハサルヲ得ス幸ニ輸
出超過ニヨリテ之ヲ償ヒ得ハ可ナリ今日マテノ如ク

輸入超過ノ趨勢猛烈ナルトキハ正債ヲ以テ支払フ
ノ外ナク果シテ然ラハ忽ニシテ正債ノ流出兌換準備
備ノ減少ヲ喚起スヘシ故ニ此ノ上更ニ新ニ公債ノ募集ヲ
要スル事業ヲ經畫シ然モ外債ヲ起シ年々外國ニ對シテ
仕払フヘキ金額ヲ増加スルハ假令其ノ公債ニテ得タル
金額ハ之ヲ鐵道ノ如キ生産的事業ニ用ユルト假定スルモ
正債支払ノ増加スルハ必然ノ結果ナルヲ以テ大ニ注意ヲ要ス
然レ氏電信及ヒ製鐵所ヲ完成スルカ如キハ交通便ヲ因
リ一ハ軍事上并ニ工業上ノ独立ヲ図ルカ爲メ必要ナル有利の
事業ナルヲ以テ止ムコトヲ得ス之ヲ起債ニ讓レリ蓋シ外國ニ於テ
ル起債タル政府独リ之ヲ慎ムノミニテハ不可ナリ民間企業
者ニ於テモ亦深ク意ヲ茲ニ用ユルヲ要ス此ノ目的ノ爲メ
ニモ動産銀行ナルモノ、没立ヲ急務ナリトス

蓋シ本邦ノ如キ進取ノ國ニ在リテハ資本ノ需
要ハ頗ル急ナリト雖モ供給ハ之ニ應シ能ハサル
ノ憾アルヲ免レス是ニ於テカ鐵道、築港、礦業
等各種起業資本ノ欠乏之ヲ告テ勸スモレハ其
最モ有益ナルモノスラ停廢セラレ經濟上ノ發達
意ノ如クナル能ハサルハ勢ノ止ムヲ得サル所ナリ故
ニ資本ノ供給ヲ裕カナラシムルカ爲メ内外金融
ノ疏通ヲ因リ以テ諸般ノ有益ナル事業ニ對シ
外資輸入ノ一大門戶ヲ開クノ必要アリ此ノ目的
ヲ貫徹セシト欲セハ勸産銀行ナルモノヲ没立スル
ニ如カス而シテ外資ノ輸入ニ関シテハ其方法手段
固ヨリニミニシテ止マラスト雖モ果シテ能ク外資ノ
流入ヲシテ熾ナラシムルハ蓋シ容易ノ業ニアラサ

ルノミナラス其外資カ果シテ有益ナル事業ノ
ニニ投下セラル、ヤヲ保スヘカラス且ツ各種ノ方法
ニ依リ各種ノ方面ヨリ殆ト際限ナキマテニ先後
ヲ競ヒテ外資ノ輸入ヲ経畫スルハ不利益ノ最
モ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス故ニ動産銀行設
立ノ作用ニヨリ幾分カ国家ノ信用ヲ利用シ
外資ヲシテ確實有カナル此ノ機關ヲ經由シテ
適度ニ流入セシメ其使用放下ノ方法目的等
ヲモ精査セシメ加フルニ完全ナル監督ヲ以テシ
外資ヲシテ最モ生産的ニ使用セラル、ノ實ヲ奉
ケサルヘカラス而シテ国家ノ信用ヲ利用スルノ方
法ハ銀行ノ発行スル債券ヲ保証スルニ依リ此
ノ如クナルトキハ政府ノ強大ナル信用ノ効力ニ依リ

外資ノ流入ヲ容易ナラシムルノ便益アルヤ必セ
リ然レハ之カ為メ濫ニ国庫ノ負担ヲ増加スルカ
如キハカメテ避ケサルヘカラサルカ故ニ資金運用ノ
上ニ嚴密ナル監督ヲ加フルト同時ニ担保物ハ悉
皆之ヲ政府ニ預ケ入レシメ加フルニ銀行ノ財産
ニツキ優先権ヲ保有スルトキハ萬一損失ヲ生
スルノ場合ニ於テモ国庫ニ累ヲ及スノ虞ナキヲ得ヘ
シ抑モ本邦ノ地勢、物産、勞力、頗ル工業ノ發達
ニ適セルニモ拘ハラズ未タ満足スヘキ域ニ達セサル所
以ノモノハ主トシテ工業ニ適切ナル金融機關ノ具
備セサルニ依リ三十一年五月ノ頃工業社会ノ急
告ケルノ際政府ハ日本勸業銀行ヲシテ之ニ向
テ多少少資本ヲ供給セシメタルモ此ノ事ナル一時ノ

権宜ニ出ラタルハ論ヲ俟タサルノミナラス元來該
銀行ハ農業地其他ノ不動産抵当ヲ以テ専業ト
為スモノナルカ故ニ之ノミニ依リテ将来益々増加
スヘキ工業資本ノ供給ニ遺憾ナカラシメルコト
ヲ望ムヘカラス隨テ工業ニ必要ナル資金ヲ供
給スルニハ動産銀行ノ設立ヲ緊要ナリトス且
ツ本邦銀行ノ制度ハ未ダ整備シタリト謂ヒ難
クシテ分業ノ組織モ亦完成スルニ至ラス難
一 般銀行業務ノ実況ヲ視察スルニ専ラ株券ノ
賣買若クハ其他ノ動産ヲ質トシテ貸出ヲ為
スニ止マルモノ少ナカラサルノ勢ニシテ中央銀行ニテ
商業機關ノ責務ヲ完クスルコト能ハサルノ事
情アリ故ニ動産専業ノ銀行ノ設立ニヨリ他ノ

一 般銀行ヲシテ株券取引若クハ動産質貸
出ノ如キ対物信用ヲ後ニ彼ノ商業銀行本然
ノ性質タル手形ノ割引其他対人信用ニ向テ
主力ヲ注カシメサルヘカラス又一 般銀行ニ於ケル
有價証券ノ取引今日ノ如ク濫雜ナルトキハ証
券ノ真價ヲ判別シ難キノミナラス正邪良否
ノ陶汰ヲ明ニスルコト能ハス隨テ不測ノ損害ヲ
醸スノ虞ナシトモス其極或ハ經濟界ニ意外ノ恐
慌ヲ生セシモ未ダ知ルヘカラス故ニ動産銀行ノ
判別ニヨリテ各種有價証券良否ノ判別ヲ
明瞭ナラシメテ有價証券ノ信用ヲ厚クシ
虚業ノ勃興ヲ制止スルノ目的ヲ達セントス
其他其臺灣ノ財政ニツキテハ之ヲシテ一月モ速ニ

自立自営ノ域ニ達セシメ國庫ヨリ其經費ノ
不足ヲ補充スルコトハ漸次之ヲ廢止スルノ方針
ヲ執リ恒來債金ノ内ヨリ支辨セシ補充費
ノ如キ明治三十二年度以降ハ一般歳入ヲ以テ
之ヲ支辨スルノ経画トセリ
之ヲ要スルニ財政ニ関スル一般ノ方針ハ畧
以上陳述セルカ如シ然レバ既定ノ事業ニシテ
遽ニ中止スヘカウサルモノアリ又議會開會時日
ノ切迫セルカ爲メ豫算ノ調製ヲ急キタル事
情アリ其他納期ノ關係ヲ増稅ニ於テモ全
年度分ノ收入ヲ得ルコト能ハサルモノアリ焉
意ノ如ク充分ニ財政上一定ノ方針ヲ貫徹ス
ルコト能ハサリシハ深ク遺憾トスル所ナリト雖

明治三十二年度豫算ニ財政ノ改革固共
ニ租稅制度行政組織ノ整理ヲ圖ルト日時
ニ國家ノ生産ヲ尊重シ一般經濟ヲ整理
助長スヘキ主義ヲ方針ヲ以テ編制シタルモノナ
リ若シ此ノ主義ヲ方針ニツキ見ル所ヲ異ニス
レバ則チ止ム苟モ國家ノ大計上此ノ主義方
針ニシテ是ナリトセバ財政經畫ノ此以外ニ出テ
難キハ毫モ疑フ容レサルナリ

